

資料編

■ 歴代理事長・評議員会長

理事長

昭和40年～昭和41年	荷見 晋(代表理事、元三井不動産)
昭和42年～昭和44年	御手洗 修(代表理事、元三井不動産)
昭和45年～昭和49年	佐藤 喜一郎(元三井銀行社長、会長)
昭和50年～昭和56年	田代 茂樹(元東洋レーヨン社長、会長)
昭和57年～平成9年	江戸 英雄(元三井不動産社長、会長)
平成9年～平成10年	原田 正(元三井鉱山社長、会長)
平成10年～現在	田中 順一郎(元三井不動産社長、会長)

評議員会長

明治39年～大正6年	青山 胤通(東京帝国大学医科大学長、医学博士、男爵)
大正8年～昭和4年	井上 勝之助(伯爵)
昭和5年～昭和6年	澁澤 榮一(子爵)
昭和7年～昭和20年	佐藤 三吉(東京帝国大学名誉教授、医学博士)
昭和21年～平成4年	三井 八郎右衛門高公(第11代三井総領家当主、男爵)
平成5年～現在	三井 長生(三井家同族会代表)

※年数は『財団法人 泉橋慈善病院三十年略誌』『三友職員録』により、在任が確認された年。

※「評議員会長」は平成20年5月から「評議員会議長」に呼称変更した。

■ 歴代院長

三井慈善病院 明治42年2月～大正8年3月



初代 田代 義徳
明治42年2月～大正10年2月

泉橋慈善病院 大正8年4月～昭和18年6月



2代 木村 徳衛
大正10年2月～昭和6年12月



3代 田代 義徳
昭和6年12月～昭和8年5月



4代 島蘭 順次郎
昭和8年5月～昭和12年4月



5代 栗山 重信
昭和12年7月～昭和22年5月

三井厚生病院 昭和18年7月～昭和45年3月



6代 岩田 正道
昭和22年6月～昭和30年3月



7代 白石 謙作
昭和30年4月～昭和39年4月



8代 木本 誠二
昭和41年8月～昭和52年3月



院長代理 秋元 波瑠夫
昭和39年5月～昭和40年3月



院長代理 藤田 馨一
昭和40年3月～昭和41年7月

三井記念病院 昭和45年4月～現在



9代 羽田野 茂
昭和52年4月～昭和58年3月



10代 田中 茂
昭和58年4月～平成5年3月



11代 萬年 徹
平成5年4月～

■ 役員

役員

理事	長	田中	順一郎	評議員	佐藤	隆史
理事		井口	武雄	評議員	鮫島	章男
理事		上島	重二	評議員	澤田	浩
理事		岡田	明重	評議員	椎野	公雄
理事		鈴木	邦雄	評議員	鈴木	正一郎
理事		西村	博	評議員	高久	史磨
理事		古沢	熙一郎	評議員	高本	眞一
理事		前田	勝之助	評議員	武谷	雄二
理事		宮村	眞平	評議員	張	富士夫
理事		萬年	徹	評議員	中村	耕三
理事		西元	秀	評議員	中村	胤夫
理事		田川	一海	評議員	中村	雅知
監事		高崎	正弘	評議員	永田	昌久
監事		藤井	健	評議員	藤田	敏郎
評議員会議長		三井	長生	評議員	藤吉	建二
評議員		三井	八郎右衛門	評議員	幕内	雅敏
評議員		足立	直樹	評議員	増田	寛次郎
評議員		伊藤	源嗣	評議員	武藤	徹一郎
評議員		岩沙	弘道	評議員	森	亘
評議員		大内	尉義	評議員	矢崎	義雄
評議員		大島	剛	評議員	矢野	恒夫
評議員		岡村	正	評議員	山口	徹
評議員		小俣	政男	名誉顧問	末松	謙一
評議員		加藤	泰彦	名誉顧問	熊谷	直彦
評議員		古森	重隆			

職員

院建設部部長	萬年徹	整形外科部長	増田彰男
副院長	田川一海	脳神経外科部長	田草川豊
副院長	西元秀	皮膚科部長	中林康青
副院長	西元秀	泌尿器科部長	富永登志
副院長	西元秀	産婦人科部長	小島俊行
副院長	西元秀	眼科部長	赤星隆幸
副院長	西元秀	耳鼻咽喉科部長	奥野妙子
副院長	櫻井靖久	放射線科部長	衣袋健司
副院長	柴輝男	放射線検査部部長	結城禎一
副院長	天野正道	麻酔科部長	結城禎一
副院長	天野正道	MEセンター部長	結城禎一
副院長	天野正道	歯科・歯科口腔外科部長	津山泰彦
副院長	杉本徳一郎	総合健診センター所長	山門實
副院長	杉本徳一郎	健康管理科部長	山門實
副院長	杉本徳一郎	中央手術センター部長	坂本昌義
副院長	鈴木毅	集中治療センター(ICU)部長	木川幾太郎
副院長	鈴木毅	高度治療センター(HCU)部長	福田幸人
副院長	木野博至	輸血センター部長代行	菊一雅弘
副院長	木野博至	病理診断科部長	森正也
副院長	戸田信夫	栄養部部長	南雲貴美子
副院長	戸田信夫	薬剤部部長代行	永井勇治
副院長	原和弘	看護部部長	金子八重子
副院長	原和弘	建設部次長	松尾智介
副院長	原和弘	総務課一課長	松尾智介
副院長	池田晋悟	建設部課長	小林豊
副院長	池田晋悟	企画部課長	小林豊
副院長	大盛芳路	総務課二課長	中田佳男
副院長	大盛芳路	総務課二課長	中田佳男
副院長	薦田房子	総合健診センター課長	三浦禎悦
副院長	中嶋義文	総合健診センター課長	三浦禎悦

管 理 二 課 課 長 阿 部 寛 病 歴 管 理 課 課 長 桜 井 雅 彦
情 報 サービス 課 課 長 医 療 安 全 管 理 課 課 長

医 事 課 課 長 土 田 俊 明
福 祉 ・ 連 携 サービス 部 課 長
D P C 管 理 統 括 部 課 長

三井陽光苑

三井陽光苑施設長 佐藤良信

三井陽光苑診療部長 佐々木憲夫

※平成21年1月現在

■病院概要

名 称 社会福祉法人 三井記念病院

所在地 〒101-8643 東京都千代田区神田和泉町 1 番地

☎ 03-3862-9111

fax 03-3862-9140

<http://www.mitsuihosp.or.jp>

施 設 B C 棟 地上13階、地下 1 階

D 棟 地上 7 階、地下 2 階(建替え計画のため閉鎖)

入院棟 地上19階、地下 2 階

総合健診センター 住友商事神田和泉町ビル 2 階

※平成21年 1 月現在

医療理念

三井記念病院は全人的視点に立ち最新・最良の医療を提供し社会に貢献します

基本方針

1. 私たちは、患者様一人ひとりが安心して医療サービスを受けていただくために、病院職員及び関係者が一丸となり、常に患者様の立場に立って努力いたします。
2. 私たちは、最新・最良の医療と看護などを提供するために、医の倫理を重んじ、日々自己研鑽いたします。
3. 私たちは、患者さまの知る権利・自己決定権を尊重するために、十分な医療情報の提供を行います。
4. 私たちは、地域の人々の医療ニーズに応えるために、地域の基幹病院としての役割を認識し、他の医療・保険機関との連携をはかります。

診療の3本柱

三井記念病院では以下の重点分野を「診療の3本柱」として位置付け、人的・物的な資源投下を積極的に行っていきます。

1. 心血管病の先進治療

心血管疾患を中心に、糖尿病・高血圧・高脂血症の合併症、腎不全、脳血管障害等の生活習慣病に対する先進的医療を診療科の垣根を越えて実施します。

2. がんの標準治療・低侵襲治療

肺癌、乳癌、消化器、泌尿器、婦人科等の領域において先進的な手術、低侵襲手術、化学療法、放射線治療等、重点を決めて実施します。

3. 高齢者の生活の質の改善を図る治療

眼科、整形、泌尿器、婦人科、耳鼻科等の領域において、高齢者のQOL (Quality of Life) 改善を図る特色ある医療を実施します。

病床数 482床 (ICU 7床・CICU 6床・HCU 21床)

手術室数 13室 (うち外来手術室 3室)

延床面積 約38,500㎡ (うち入院棟28,750㎡)

診療科名 (30科) 内科、神経内科、内分泌内科、糖尿病代謝内科、血液内科、腎臓内科、膠原病リウマチ内科、消化器内科、呼吸器内科、循環器内科、精神科、小児科、外科、乳腺内分泌外科、消化器外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、歯科・歯科口腔外科、緩和ケア科、病理診断科

その他の診療部門 集中治療センター（ICU）、冠疾患集中治療センター（CICU）、高度治療センター（HCU）、中央手術センター、救急センター、腎センター、化学療法センター、内視鏡センター

施設基準 入院等に関する事項

一般病棟入院基本料 7 対 1
後期高齢者退院調整加算
臨床研修病院入院診療加算
診療録管理体制加算
療養環境加算
特定集中治療室管理料

治療・検査に関する事項

高度難聴指導管理料
小児科外来診療料
ニコチン依存症管理料
検体検査管理加算（Ⅰ）
検体検査管理加算（Ⅲ）
心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
神経学的検査
補聴器適合検査
画像診断管理加算 2
CT撮影及びMRI撮影
冠動脈CT撮影加算
エタノールの局所注入（甲状腺に対するもの）
エタノールの局所注入（副甲状腺に対するもの）
高エネルギー放射線治療
補綴物維持管理料

医療機器安全管理料 1

地域歯科診療支援病院歯科初診料

食事に関する事項

栄養管理実施加算

薬剤管理に関する事項

薬剤管理指導料

無菌製剤処理料

外来化学療法加算 1

輸血管理料 II

リハビリテーションに関する事項

心大血管疾患リハビリテーション料 (I)

呼吸器リハビリテーション料 (I)

その他

緩和ケア診療加算

ハイリスク妊婦管理加算

褥瘡患者管理加算

電子化加算

医師事務作業補助体制加算

麻酔管理料

短期滞在手術基本料 1

経皮的冠動脈形成術 (高速回転式経皮経管アテレクトミーカテ
ーテルによるもの)

経皮的中隔心筋焼灼術

ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術

両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術

埋込型除細動器移植術及び埋込型除細動器交換術

両室ペーシング機能付き埋込型除細動器移植術及び両室ペー

シング機能付き埋込型除細動器交換術
大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
補助人工心臓
体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術
乳がんにおけるセンチネルリンパ節の同定と転移の検索(先進医療)

学会等施設認定 公的機関等

厚生労働省指定臨床研修病院(医科・歯科)
東京都指定二次救急医療機関
東京都指定肝臓専門医療機関
東京都医師会母体保護法指定医師研修指定医療機関
東京都CCUネットワーク加盟施設
東京都区部災害時透析医療ネットワーク会員施設
日本医療機能評価機構認定病院(審査体制区分3(ver.4.0))

学会等

日本内科学会認定医制度教育病院
日本神経学会専門医制度教育関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本腎臓学会研修施設
日本透析医学会専門医制度認定施設
日本高血圧学会認定高血圧専門医制度認定施設
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
日本心血管インターベンション学会認定研修施設
ステンドグラフト実施基準委員会認定実施施設

日本外科学会認定医修練施設
日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本呼吸器外科学会専門医認定施設
日本呼吸器外科学会指導医制度認定施設
日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設
日本消化器外科学会専門医修練施設
日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設
日本食道学会全国登録認定施設
日本乳癌学会認定医・専門医制度認定施設
日本臨床腫瘍学会認定研修施設
日本がん治療認定医機構認定研修施設
日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設
日本リウマチ学会教育施設
日本整形外科学会専門医制度研修施設
日本皮膚科学会専門医研修施設
日本泌尿器科学会専門医教育施設 基幹教育施設
日本産科婦人科学会認定医指導施設
日本産科婦人科学会専門医制度卒後研修指導施設
日本眼科学会認定医指定施設 基幹教育施設
日本眼科学会専門医制度研修施設
日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本医学放射線学会専門医修練機関
日本インターベンショナルラジオロジー学会指導医修練施設
日本麻酔科学会認定指導病院
日本病院会指定優良自動化健診施設
日本病院会指定優良短期人間ドック施設

日本総合健診医学会認定優良総合健診施設

日本輸血学会認定医制度指定施設

認定輸血検査技師制度指定施設

日本病理学会専門医制度認定施設・研修施設

日本臨床細胞学会認定施設

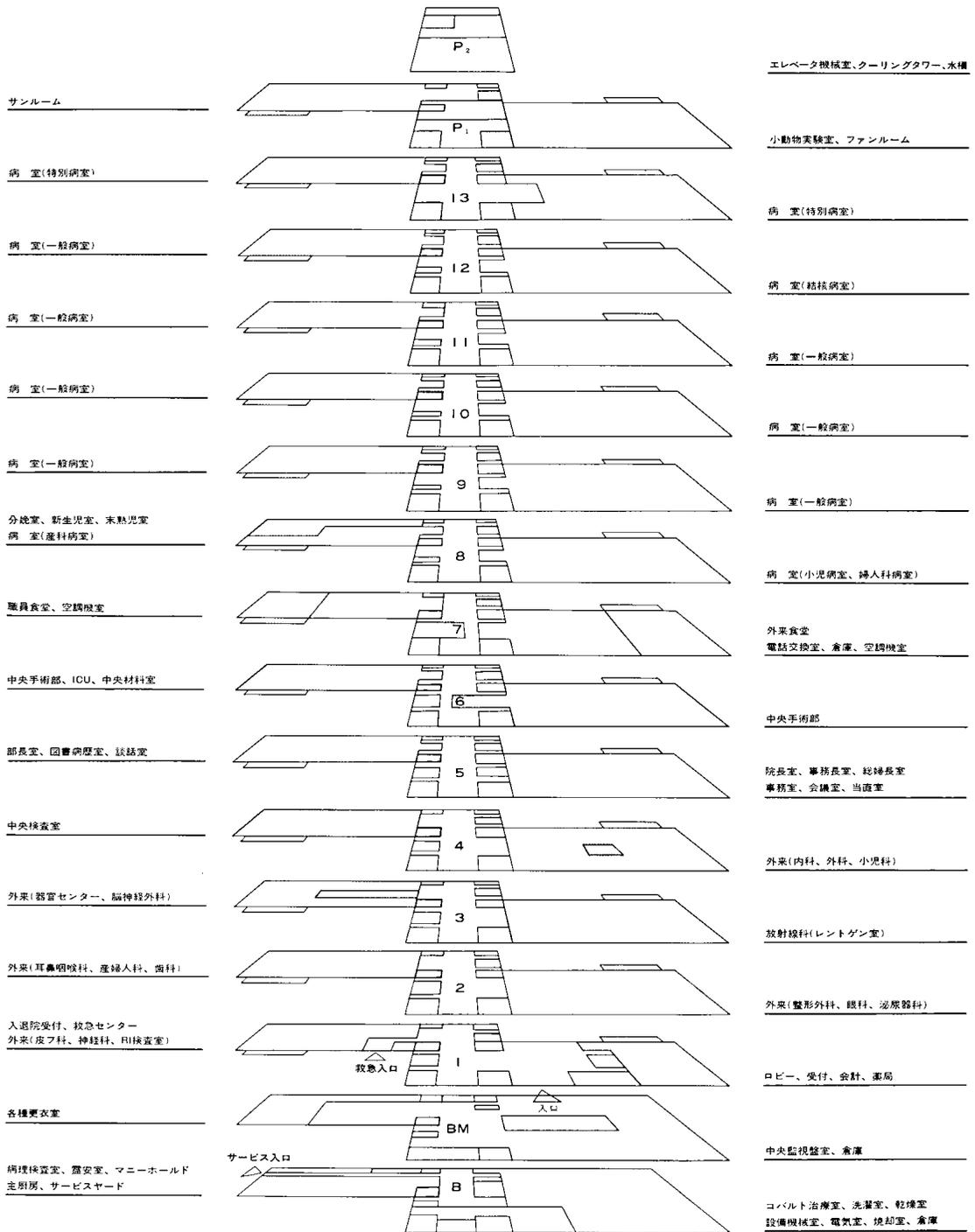
日本病態栄養学会認定栄養管理・NST実施施設

日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設

保険診療指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護指定、結核予防法指定、精神保健指定、身体障害者福祉法指定、児童福祉法指定、母体保護法指定、老人保健法指定、原子爆弾被爆者医療指定、公害医療機関、東京都医療費助成、妊娠中毒症等医療費助成、心身障害者医療費助成

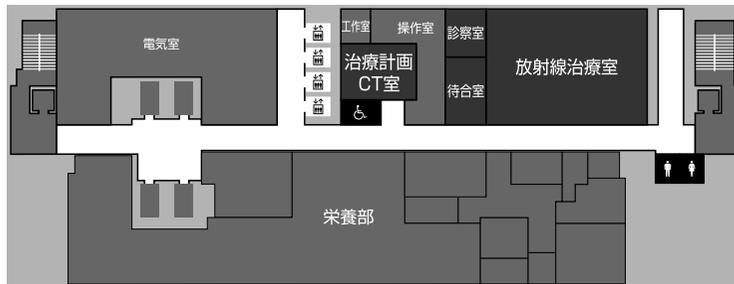
■ B C棟フロア図



■入院棟フロア図

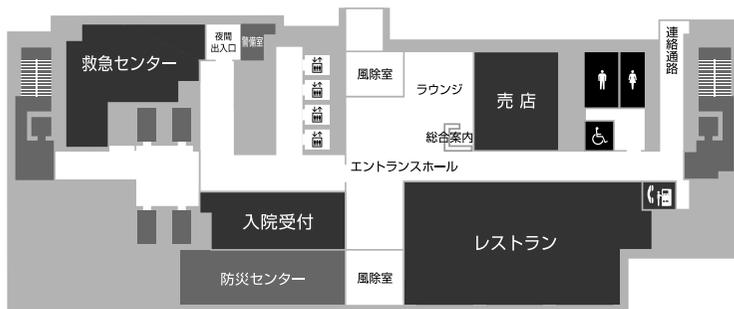
B1F

放射線治療科・栄養部



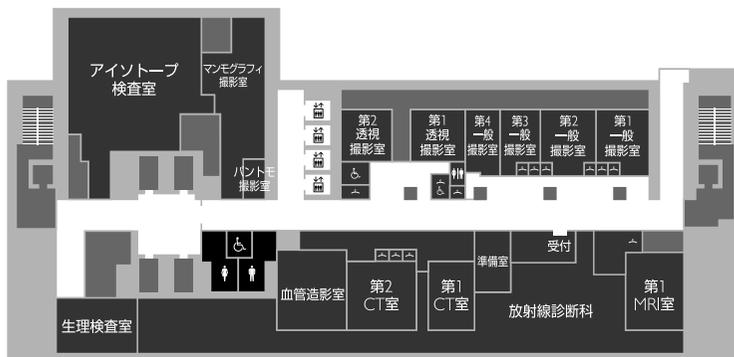
1F

救急センター・入院受付
売店・レストラン



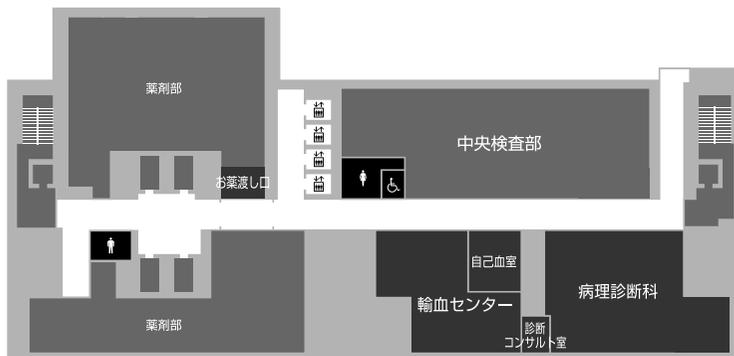
2F

放射線診断科



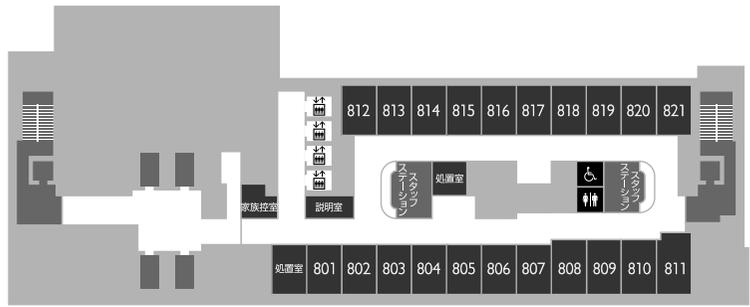
3F

病理診断科・輸血センター
薬剤部・中央検査部



8F

HCU



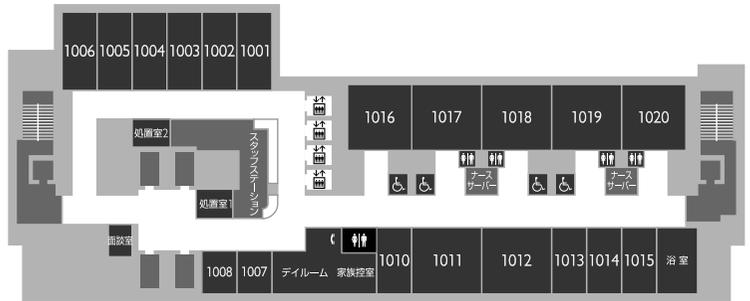
9F

産婦人科病棟



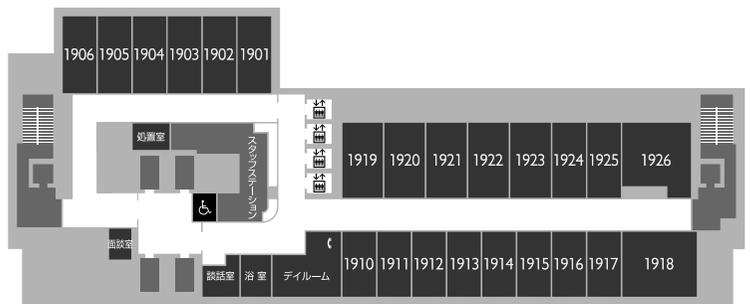
10F - 18F

一般病棟



19F

個室病棟



年	月日	当病院の動き	世界・三井グループの動き
安政5年 (1858)	5. 7	東京大学医学部の前身である江戸お玉ヶ池に種痘所開設	1859 三井八郎右衛門、三郎助、次郎右衛門、元之助が幕府外国方御金御用達を拝命
	11. 15	種痘所が火事により類焼	1860 桜田門外の変
文久1年 (1861)	10. 25	種痘所が西洋医学所に改称	1864 池田屋事件、禁門の変
文久3年 (1863)	2. 25	種痘所が医学所に改称	1965 リンカーン大統領暗殺
明治1年 (1868)	7. 20	新政府が横浜の軍陣病院を下谷藤堂邸に移し医学所を含めて大病院と改称	1966 薩長同盟締結
明治2年 (1869)	1. 一	大病院が東京府の所管となる	1867 大政奉還、坂本龍馬暗殺
	2. 一	大病院を医学校兼病院、大学東校と改称	1868 王政復古の大号令、鳥羽・伏見の戦い
明治4年 (1871)	7. 18	大学が廃止され文部省を新設、大学東校を東校と改称し、文部省の所管とする	1869 戊辰戦争終結
明治5年 (1872)	8. 3	文部省が学制を定め、学区制を採用し東校を第一学区医学校に改称	1871 廃藩置県
明治7年 (1874)	5. 7	学制改革により第一学区医学校を東京医学校に改称	1872 新橋～横浜間で日本初の鉄道開業
明治10年 (1877)	4. 12	東京帝国大学が創立され、東京医学校が東京帝国大学医学部となる	1876 三井銀行、三井物産設立
明治11年 (1878)	11. 一	神田和泉町の大病院跡に東京帝国大学医学部付属病院を開く	1877 西南戦争勃発
明治15年 (1882)	7. 1	本郷の医学部付属病院を第一医院、神田和泉町のあるものを第二医院とする	1878 大久保利通暗殺
明治34年 (1901)	1. 29	第二医院が火事により全焼	1889 大日本帝国憲法発布
明治36年 (1903)	一. 一	東京市長・尾崎行雄が市立病院の設立を計画。三井家が東京市に10万円を寄付	1893 越後屋を「合名会社三井呉服店」に改組、三井家同族会発足、三井組が三井元方に改称
			1902 八甲田雪中行軍遭難事件
			1904 日露戦争勃発、三井呉服店が「株式会社三越呉服店」に改称、「デパートメントストア宣言」を発表し日本初の百貨店となる
三井慈善病院			
明治39年 (1906)	9. 25	三井家が第二医院跡地を入手、100万円を寄付して財団法人組織の慈善病院設立を決定。診療業務は東京帝国大学医科大学に委託	
	10. 3	内務大臣から財団法人三井慈善病院設立の認可を得る	
明治41年 (1908)	12. 10	三井慈善病院の建物が竣工	
明治42年 (1909)	1. 25	院内に仮事務所を設けて事務を開始	1909 三井合名会社設立
	3. 20	警視総監から病院施設の一部落成使用の認可を得る	

年	月日	当病院の動き	世界・三井グループの動き
明治42年 (1909)	3.21	三井慈善病院開院式を挙行(120床)	
	4.26	社団法人同愛社と協定	
明治43年 (1910)	一.一	研究生及び講習生制度を開始	1910 大逆事件、韓国併合
	7.22	小松原文部大臣が視察	
	8.一	東京市内の水害で罹災者を臨時救護	
	11.5	平田内務大臣が視察	
明治44年 (1911)	4.24	産婦人科設置	1911 アムンゼンが南極点到達
	5.1	小児科設置	
	一.一	三井家が20万円を寄付	
明治45年 (1912)	一.一	看護婦長がドイツのケルンで開催された 第3回看護婦国際大会に出席	1912 タイタニック号沈没
	一.一	三井家が5万円を寄付	
大正3年 (1914)	一.一	放射線科設置	1914 第一次世界大戦勃発
大正4年 (1915)	一.一	マッサージ科設置	1915 対華21カ条要求
大正5年 (1916)	5.一	附属産婆看護婦養成所が警視總監から看護婦養成所に指定される	
	一.一	御大典記念として宮内省から御下賜金がある	
大正6年 (1917)	一.一	暴風雨に際して特別診療を行う	1917 ロシア十月革命
	1.19	大森皇后宮大夫が来院	1918 富山県魚津町で米騒動、全国に波及
泉橋慈善病院			
大正8年 (1919)	4.7	皇后陛下が行啓	
	4.一	三井家が175万円を寄付。泉橋慈善病院に改称	
	一.一	病理科設置	
大正9年 (1920)	4.7	泉橋慈善病院賛助婦人会を設立	1920 国際連盟発足
大正10年 (1921)	2.一	東京府知事から私立学校令による産婆看護婦養成所の設立が認可される	1921 原敬首相暗殺
大正12年 (1923)	9.19	竹田宮妃殿下が来院され、関東大震災の罹災者を慰問	1923 関東大震災
	9.29	皇后陛下が行啓され、関東大震災の傷病者を慰問	
大正14年 (1925)	一.一	三井家が100万円を寄付	1925 治安維持法、普通選挙法施行
大正15年 (1926)	一.一	鉄筋コンクリート3階建の看護婦寮宿舎を新築	1927 リンドバーグが初の大西洋無着陸飛行

年	月日	当病院の動き	世界・三井グループの動き
昭和3年 (1928)	9.24	望月内務大臣が来院	1928 張作霖爆殺事件
昭和5年 (1930)	一.一	鉄筋コンクリート3階建の病理棟を新築	1929 三井本館竣工
	1.13	高松宮殿下が来院	1932 三井合名理事長・團琢磨暗殺
	3.12	安達内務大臣が来院	1936 2.26事件
	6.5	東久邇宮殿下が来院	1937 日中戦争勃発
昭和14年 (1939)	4.7	創立30周年記念式を挙	
三井厚生病院			
昭和18年 (1943)	7.一	三井厚生病院に改称	1940 日独伊三国同盟成立
昭和20年 (1945)	3.10	東京大空襲で看護婦寮宿舎と病理棟を残し建物が焼失	1941 三井不動産設立
昭和22年 (1947)	8.一	焼け残った建物を改修し、診療を再開(20床)	1941 太平洋戦争始まる
昭和26年 (1951)	3.一	モルタル造りの2階建て病棟を新築(148床)	1945 太平洋戦争終結、GHQが財閥解体指令
昭和27年 (1952)	5.一	財団法人から社会福祉法人へ組織変更	1946 三井本社解散
昭和31年 (1956)	11.5	モルタル造りの2階建て病棟を新築(212床)	1947 三井物産解散
昭和43年 (1968)	12.18	第1期工事(B C棟)起工	1950 三井グループ企業による月曜会発足
三井記念病院			1951 サンフランシスコ講和条約調印
昭和45年 (1970)	4.1	三井記念病院に改称	1952 血のメーデー事件
	4.7	B C棟竣工	1956 日本が国連に加盟
	9.28	開院式を挙	1959 第一物産と三井物産が合併、商号を三井物産とする
昭和46年 (1971)	4.1	三井記念病院高等看護学院開院	1961 三広会(現三井広報委員会)設立、三井グループの社長会・二木会発足
昭和49年 (1974)	8.31	結核病棟廃止	1968 霞が関ビル竣工
昭和53年 (1978)	7.20	第2期工事(D棟)起工	1969 米アポロ11号が月面着陸
昭和55年 (1980)	4.7	D棟竣工(411床)	1970 大阪で大阪万国博覧会が開幕
昭和56年 (1981)	9.一	看護学院棟起工	1974 新宿三井ビル竣工
			1975 ベトナム戦争終結
			1976 ロッキード事件で田中角栄前首相逮捕
			1977 日航機ハイジャック事件
			1982 日航機が羽田沖に墜落、ホテル・ニュージャパン火災

年	月日	当病院の動き	世界・三井グループの動き
昭和58年 (1983)	4. —	看護学院棟竣工	1983 東京ディズニーランドオープン
	6. 6	小児科病棟増床(482床)	1989 昭和天皇崩御、新元号「平成」施行
平成5年 (1993)	8. —	管理棟竣工	1992 太陽神戸三井銀行が「さくら銀行」に行名変更
平成6年 (1994)	8. —	住友商事神田和泉町ビル内に「総合健診センター」開設	1995 阪神大震災、地下鉄サリン事件
平成14年 (2002)	5. —	東京都江東区に特別養護老人ホーム「三井陽光苑」開院	2001 さくら銀行と住友銀行が合併「三井住友銀行」に行名変更
平成16年 (2004)	3. —	三井記念病院高等看護学院閉院	2002 サッカーのワールドカップを日本と韓国で共同開催
	6. —	格付け会社フィッチ・レーティングスから「A格」に認定される	2005 愛知万博に「三井・東芝館」出展、日本橋三井タワー竣工
平成18年 (2006)	3. —	5カ年の全面建替工事計画発表	
	7. —	看護学院棟、管理棟の解体工事開始	2007 東京ミッドタウンオープン
	10. 19	入院棟起工	
平成20年 (2008)	9. 9	入院棟竣工式を挙行	2008 赤坂サカスオープン、三越と伊勢丹が経営統合
	12. 27	入院棟開棟	
平成22年 (2010)	9. —	外来棟竣工(予定)	
平成23年 (2011)	9. —	B C棟解体、外構工事完了(予定)	

■主要参考文献

(書名、著者・編者・発行者)

『三井事業史 本篇第三巻』三井文庫

『三井八郎右衛門高棟傳』三井八郎右衛門高棟傳編纂委員会 三井文庫

『財団法人 泉橋慈善病院三十年略史』泉橋慈善病院

『財団法人三井慈善病院第二回 自明治四十二年七月至全四十二年一二月報告』
三井慈善病院

『渋沢栄一伝記資料 58巻』渋沢青淵記念財団竜門社 渋沢栄一伝記資料刊行会

『三井不動産40年史』財団法人日本経営史研究所 三井不動産

『東京大学医学部百年史』東京大学医学部創立百年記念会／東京大学医学部百年史編集
委員会 東京大学医学部内東京大学医学部創立百年記念会

『医学生とその時代 東京大学医学部卒業アルバムに見る日本近代医学の歩み』
東京大学医学部・医学部附属病院創立150周年記念アルバム編集委員会 中央公論社

『下弦の月 三井記念病院とともに半世紀』清瀬闊

『三井記念病院 '70』三井記念病院建設委員会

『「慈善」から「福祉」へ 写真で見る全国社会福祉協議会の100年』
社会福祉法人全国社会福祉協議会

『三井事典 巻一』三友新聞社

『三井グループ2008』三友新聞社

『三友新聞 三井厚生病院の今昔 上・下』

荷見晋 三友新聞社(昭和40年7月29日、8月5日掲載)

『三友新聞 神田和泉町界限』

松永秀夫 三友新聞社(平成4年10月22日～平成5年6月24日掲載)

ロゴマークの由来



ロゴマークは、元気に育つ2つの若葉で「最新の医療・最良の医療」という理念を示し、濃淡の2色の青で、医療機関としての「信頼性」と「親しみやすさ」を表現しています。

また、病院名の頭文字である「M」を描き、外側から内側へ伸びるラインは、地域に根ざした基幹病院でありたいとの願いもこめています。

多くの候補デザインの中から、全職員の投票で最も多くの支持を得たものです。

取材協力

三井記念病院	元副院長	大谷 五良
三井記念病院	元副院長	清瀬 闊
日本看護学校協議会	会長	山田 里津
共立女子短期大学	看護学科長	矢野 章永
日本設計	建築設計群チーフ・アーキテクト	来野 炎
	建築設計群主任技師	本田 真吾

百年史編纂担当者

三井記念病院	企画部	町井 健二
三友新聞社	編集局長	藤本 邦彦
		吉澤 大輔

三井記念病院 百年のあゆみ

2009年3月発行

発行 **社会福祉法人 三井記念病院**

〒101-8643

東京都千代田区神田和泉町1番地

☎03-3862-9111

編集・制作 **株式会社三友新聞社**

〒103-0021

東京都中央区日本橋本石町4-4-20 三井第二別館

☎03-3241-4420

印刷 **凸版印刷株式会社**

〒101-0024

東京都千代田区神田和泉町1番地

本書の一部または全部の無断複写・複製・転記載等を禁じます。